

平成 20 年 10 月 14 日

各位

会社名 アライドテレシスホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役会長 大嶋 章 禎  
(コード番号：6835 東証第 2 部)  
問合せ先 I R 部 原 洋 一  
(TEL：03-5437-6007)  
(URL <http://ir.at-global.com/>)

## 最近の資金繰り状況に関しまして

最近の金融環境の急激な変化を契機に、日本全体の景気の先行きや各企業の業績の不透明感が増す状況にあり、日経平均株価の大幅な下落を招いております。

当社におきましても、この流れに抗しきれず、株価の下落を招いておりますが、今般、当社の資金繰りの実際の状況をご理解いただきたく、ご報告いたします。

当社の営業利益は、昨年度（平成 19 年 12 月期）15 億円、この 6 月の中間期において 9 億円を計上し、今年度の通期でも 19 億円を見込んでおります。

利益の大幅な向上に加え、在庫圧縮や債権回収の早期化等の施策を講じたことにより、「営業活動によるキャッシュフロー（営業利益+減価償却費+売掛金増減額等）」は、昨年度大幅に増加し、直近の**中間期においても 35 億円のキャッシュフロー**を確保し、下半期も中間期同様に堅調に推移しております。

このキャッシュフローを返済原資に、借入金は平成 18 年 12 月末 135 億円、平成 19 年 12 月末 55 億円、平成 20 年 6 月末 21 億円と大幅減少しており、**今年度末には 20 億円**になる見通しであります。

	H18/12 期	H19/12 期	H20/6 中間期
営業活動によるキャッシュフロー	20 億円	54 億円	35 億円
期末借入金残高（含む社債）	135 億円	55 億円	21 億円

注：借入外資系金融機関 Westpac Institutional Bank, Silicon Valley Bank, Credit Suisse

結果、資金繰りの良否判定基準となる当座比率（現金+売掛金+有価証券を、買掛金等の流動負債で割った比率）、又、企業経営の安全性判定基準となる自己資本比率（自己資本を総資産で割った比率）に関して、良好な水準に達しております。

	H20/6 中間期	H18 年製造業平均（財務省統計値）
当座比率	109%	86%
自己資本比率	51%	44%

尚、外国為替レートの変動に伴う為替評価損益の増減は、キャッシュフロー自体に影響しないことを付言しておきます。

引き続き企業業績向上に邁進して参りますので 今後ともご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

以上

注：本資料に記載の業績等の数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。